医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所　　（二日町）
在宅療養支援有床診療所（浦佐）

もんぎ

9
Vol 364
2022/9.15

池田キンさん書

百寿のお祝い（曽根　トミノ様）
撮影地：萌気園二日町診療所「曼陀羅華」
撮影者：曼陀羅華職員

老いると老齢を考える（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
理事長活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
黒岩卓夫一代記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
地域共生を支える医療介護市民
全国ネットワーク・・・・・・・・・・・・・5
リハビリセンター浦佐　夏祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
うちの利用者さん／診療所からのお知らせ・・・・・・7
インフルエンザ予防接種のお知らせ・・・・・・・・・・・・・8

老いると老齢を考える（1）

萌気会　会長・相談役
黒岩　卓夫

医にかかわってわかることは、「老い」は誰の老いかで様相を変えることだ。そこで“自分の老い”を考えてみる。最近は「もの忘れ」を自覚し、その先を老いと考えていた。しかし昨年6月あひるに襲われて慌てて逃げて、無理に振り向いた時、すぐそこまで来ていたので足で追い払おうとして、尻もちをつき、腰椎1の粉砕骨折を蒙った。

これは明らかに老いと関係があり、転倒したことと、その後の肉体の不自由を極めて具体的に味わった。

そこで故吉本隆明さんは10年前に亡くなられたが、老いに関する本を数冊書いている。私が学生の頃の、思想や文学の師であったし、本人が学生デモにも参加した。彼は「老いる」と「老齢」は違うという。「人間は自然の一部として、自然に逆らえないので“生”や“死”があるのですが、それでも**“自然”に対して逆らう必敗の闘い**をしなければ、老いることはできません。」（『老いの流儀』2002年）老齢というステージは、必ず負けるとわかっていても闘わねば自然死もやってこないという。

「**人は歩けなくなり、しゃべれなくなり、食べれなくなって死んで行く**」私はこれが理想的な自然死であり、闘わなくてもすむ老衰死と思っていた。しかし吉本隆明さんは**自然に対して闘わなければ自然死**もないという。

また「老年期の幸福について考えるとき、身体の状態をぬきにしては語れない。」「死というのは不定なのだ」「何で死ぬか、いつ死ぬか」は本当に分からない。

そして「自分の死というのは自分のものではない。病気で重体になって死ぬといっても自分のものではない」死というのは、**はたで一番親しくしてくれた人が納得するかしないかのものです**。と述べている。

ふつうは「御臨終です」と医師が頭を下げ、家族の誰かも神妙に頭を下げれば死がきまる。それに対して吉本さんは「一番親しくしてくれた人が納得するかしないかのものです」と述べている。この場面は私が最近提言している「**おふたりさま**」の考え方に一致している。

さらに、老齢と老いるはどう違うのか、次号で考えてみたい。

第6回
新潟月1緩和ケア勉強会

萌気会理事長
萌気園浦佐診療所　院長　黒岩　巌志

2022年6月14日、第6回新潟月1緩和ケア勉強会（オンライン）の演者として登壇した。この会は、新潟県立がんセンターの緩和ケア科部長本間英之先生と㈱第一三共が企画し、2022年1月から12月まで月1回、計12回の予定で開催されている。演者は新潟県内各地域の医師、薬剤師、看護師が担当する。12回のうち8回が病院、4回が在宅での緩和ケアに関する講演となっている。私は、全国的に特に医療資源が乏しい当地（魚沼地域）でのがん患者の在宅緩和ケアについて講演した。聴講者は約110名。講演では、**“医療必要度の高いがん患者が医療資源の乏しい当地で在宅療養を継続するために必要な6つのこと”**を私見として示した。

1：在宅緩和ケアの**知識**を持つ**多職種**（医師、看護師、薬剤師、リハ職、ケアマネなど）の存在。
2：急速な状態変化に多職種チームで対応すべく、インターネットを使った密で迅速な**多職種連携**。
3：紹介元の病院と在宅緩和ケアを担う当院との密な**病診連携**。
4：内服困難時に有用で効果も高い**麻薬の注射剤**を調剤するために必須な**無菌ベンチ**を備えた薬局。
（東京都より広い魚沼圏域（3市2町）で当院近隣の2か所しかない）
5：症状変化が頻繁ながん患者では医師の訪問頻度が多く、半径8㎞以内の狭い範囲の患者しか診られない。オンライン診療の併用など、**訪問エリア拡大策**が必要。
6：家族の**覚悟**。

写真は、講演で提示した昨年秋に自宅でお看取りした小児悪性脳腫瘍患者とその家族と撮った写真と逝去後に母から頂いた患者が生前育てていた朝顔の種、そして私の自宅で今まさに咲き誇っているその朝顔である。この患者は、麻薬の持続注射、点滴、酸素、導尿、膀胱洗浄、吸痰などを要し医療必要度が高かったが、基幹病院と連携しながら最期まで自宅で療養することができた。特に『**母の覚悟**』が大きかった。最期は家族に近所の人たちも加わり大勢に囲まれ旅立った。私が呼ばれたのは旅立ちの1時間後。家族と近所の人たちだけの理想のお看取りとなった。

今は、COVID-19の蔓延の影響で、病院で最期を迎える場合、付き添い人数に制限がある。そのため在宅で過ごすのが困難な医療必要度が高い患者でも在宅での看取りを望むケースが確実に増えている。当地では在宅側の受け手が乏しく希望通りに自宅で療養できない患者が少なからず居る。上記6つの中に示した課題を少しずつでも解決し、また在宅緩和ケアのことをもっと市民に啓発していくことが大切である。

漫画 黒岩卓夫一代記 第二部 エピソードで描く

画：福留慶
文・監修：黒岩卓夫
方言アドバイザー：東山美代子

第23話 特攻隊用 幻の八色原秘匿飛行場

読者の皆さん、「秘匿飛行場」と聞いてどう思いましたか。日本人の敗戦末期、内地決戦を想定してのこと。しかも特攻隊用の飛行場であることも驚きでした。沖合洋上300km以内の泊地敵船団を、越後山脈を越えて出撃する体制とのこと。しかし飛行場づくりの兵は銃の代わりに鍬やツルハシを担いできた。実際は武器などすでに1つもなかったということだ。旧伊米ヶ崎村の有志による「八色原飛行場建設記録集」作成・活用実行委員会（会長：桑原邦夫さん）に心から感謝します。また浦佐の山本真吾さんありがとうございます。

地域共生を支える
医療・介護・市民
全国ネットワーク

地域共生社会はみんなで支える。
誰もが安心して暮らせるまちをつくる。

第1回
全国の集い
2022年9月
18日(日)・19日(月・祝)
平塚プレジール
ハイブリッド開催(現地開催・Live 配信)

第1回　地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 全国の集い in 湘南ひらつか 2022

事務局介護担当　髙橋　由香

例年開催の地域医療研究会と在宅ケア全国ネット大会が、合併し新たに『地域共生』が加わった記念すべき第１回大会に社外研修として参加をします。新生された組織の目的は、「人が心身のみならず、社会的・経済的にも様々な問題を抱えても住み慣れた地域でともに支え合いながら、安心して子育てができ成長し最期まで生活することができる『地域共生社会』の構築及び維持発展に寄与すること」としています。医療・介護・福祉領域だけでなく市民も含め様々なジャンルで活躍をされている方々から日々実践している取組みや課題について情報収集をして地域の皆さんの暮らしを支えるためにこれからも取組んで参ります。

例年参加している職員発表の実践交流会は、以下の９のカテゴリーに分かれています。
今年度、萌気会が発表する演題は、3 題。また、カテゴリー 3. 緩和ケアと看取りは、黒岩巌志理事長が座長として登壇されます。

【実践交流会 カテゴリー】

1. 在宅生活の継続
2. 訪問サービス・通所サービス
3. 緩和ケアと看取り
4. 人材育成・教育
5. 地域で支える認知症ケア
6. 口腔ケアと栄養管理
7. 地域包括ケア
8. 新しい試み
9. 薬の医療介護連携

発表 3 演題は、事前に萌気職員専用 YouTube に投稿・法人内投票を実施し、それぞれの演題の評価を募りました。事業所ごとにいただいた意見を参考に本大会に向けて再調整をして挑みたいと思います。なお、得票順位は、下記の通りでした。

順位	交流会カテゴリー	発表者・演題名・内容
1	訪問サービス・通所サービス	木暮　拓美：萌気園訪問リハビリテーションりらいふ 所長
		我らは『リハレンジャー！』 リハビリテーションの魅力を多くの方に届けたい
		介護事業所からリハビリ職への相談対応のニーズに応えるため活動を開始。実際に事業所へ訪問し介助方法や身体機能・生活動作の評価や助言などケアに関する相談対応の結果、得られた効果の実績報告です。
2	新しい試み	上村　光男：萌気会事務局長
		みんなの冷蔵庫をとおして地域に支援の輪を広げたい 『みんなの冷蔵庫』『こども食堂』を企画運営しています
		経済的に困窮されている方への支援策としてチャリティー美術展を開催し集まった寄付で浦佐普光寺に「みんなの冷蔵庫」を設置。また、不定期でこども食堂も運営しています。その活動報告を行います。
3	人材教育・育成	髙橋　由香：萌気会事務局介護担当
		『働きやすい職場づくり』ハラスメント対策 萌気会ハッピーケアプロジェクトの取組
		「人財」を守る。「働きづらさ」について考えるきっかけを提起。先ずは、他者との関わり方を学び、働き方やスキルアップについて考え話し合う事から始めよう。個人の意識啓発と組織の取組みを報告します。

リハビリセンター浦佐 夏祭り

8月19日に小さなリハセン夏祭りを開催しました。早めに運動が終わった利用者さんから注文を取り、好みのシロップでカキ氷を提供。「う～ん、はっこい」「歯にしみるけどうんめえなぁ」と言いながら、お盆休み明けで少しボーッとしていた目がシャキッとされていました(笑)。あとは、ヨーヨー釣りに型抜き、職員の写真で的当てゲームもしました。何十年ぶりの遊びに小さな頃を懐かしむ方、子供の頃は親に遠慮して夏祭りに行けなかった・・・と、この歳になって初めてお祭りの遊びを経験できたと喜ばれている方もいらっしゃいました。

今後も状況に応じて利用者さんと楽しめるイベントを考え中です。

型抜き

かき氷

ヨーヨー釣り

おかげさまで萌気会は30周年 30th ANNIVERSARY

萌気３０周年記念委員会 活動報告

萌気30周年記念事業イベント係　諸橋　滉哉・山田　春樹

萌気100年プロジェクトのYouTubeとアスリートクラブのコラボレーションで誕生した30周年記念事業イベント係です。

私たちは萌気会が30周年を迎えるにあたり、普段と違う面白いことをしようと企画してきました。その1つが事業所対抗150mリレーです。当初はガチンコのリレー対決を思い描いていましたが、蓋を開ければ真面目に走る人など一人もいなく、面白対決。撮影も一苦労(笑)。

そして30周年記念動画の編集。これは「30」にちなんだ画像などで動画を作るというもの。今は編集作業中です。

記念誌に掲載予定の各種対談の日程調整から撮影まで幅広く活動しています。真面目な話からプライベートな話まで盛り沢山の内容です。

どれもこれも私たちが思い描いていた以上の面白さに仕上げてくる職員のサービス精神に感服いたしました。

次号は記念誌担当の報告です。担当さん、よろしくね！

うちの利用者さん

萌気園二日町診療所　「曼陀羅華」

今号の表紙を輝かしく飾って下さった曽根トミノ様。御年１００歳を迎えられましたが、「えっ？100歳!？」と初対面の方には毎回驚かれる位若々しく、パワーに満ち溢れ、今でも毎日畑に草むしりに行き、野菜や花を育てているとのこと。曼陀羅華でも元気に歌を歌い、また面倒見が良く陽気な性格なので周りの方にも明るく話し掛けて下さいます。

そんなトミノ様に長生きの秘訣をお聞きした所「欲を持たず、人に尽くす『奉仕の心』を持ち続ける事。」なんだとか。

今度は日本一高齢で元気なおばあちゃんになれるようこれからも元気にお過ごしください！

曽根　トミノ様

事業所紹介　小規模多機能居宅介護　「たもんの郷」

お盆が過ぎ、日が短くなったように感じます。四季の移ろいを感じながら過ごせることを幸せに思います。

たもんの郷では、毎日体操やレクリエーションを行っています。最近では「数字合わせ」をして楽しんでいただきました。ペットボトルの蓋の上に数字が書いてあり、紙に書いてある数字と同じところにペットボトルの蓋を置いてもらいます。

職員が、17…17歳のころはどうでしたか？55歳の時は？などと質問をすると、まるでタイムマシーンに乗ってあの頃に戻ったかのようにお一人お一人お話しを聴かせてくださいました。

職員も、あの頃はこうだったなぁと一緒に思い出しながら楽しませていただきました。

安心コラム　～子どもと自然災害～

私は子ども（中学生以下）の頃、大きな台風が来るとワクワクした。なぜなら台風の力で世の中が変わるからだ。大人は洪水が大変だ、地滑りが大変だと思っている。私の住んでいた若栗峠は山（海抜900m）の頂上近くで山崩れはなし、地滑りもない、洪水もなかった。

敗戦後の日本は、1960年以降の高度成長までは、田舎や山村は全く変わらなかった。通学路の丸太3本の橋は何年経っても変わらなかった。それが大きな台風で、あっという間に流され新しい橋になる。時には大糸線の鉄橋も流され立派な橋に生まれ変わった。文明は自然の力でしか進歩しなかったのだ。しかし今は違うね。何が違うのか。

皆さん御存知？高知県の四万十川（かなり大きい）の橋の多くは、橋の欄干（手摺）は全くない。流木などで橋が流されない為だ。

診療所からのお知らせ

浦佐・二日町診療所

９月より電話応対開始時間を変更させていただきます。
８：００　➡　８：３０

二日町診療所

11月より診療曜日を変更させていただきます。

・整形外科	藤原医師	水・土	➡	火・土　（午前・午後）
・内科	黒岩医師	火・木	➡	水・木　（午前のみ）

よろしくお願いします

よろしくお願いいたします。

インフルエンザ予防接種のお知らせ

1. 診療所　接種開始期日・時間・妊婦

診療所	接種開始	時　間	月～金	土曜	日曜	祝日	妊　婦
浦　佐 診療所	10月3日 月曜日 開始予定	午前8:30～11:30	○	ネット 予約のみ	×	×	接種を受付けています
		午後4:30～5:30	ネット 予約のみ	×	×	×	
二日町 診療所		午前8:30～11:30	○	○	×	○	
		午後4:30～5:30	○	×	×	×	

・流行前の 12 月末までに接種されることをお勧めします

2. 接種同意・同伴

年　齢	保護者等署名	保護者等同伴
16歳～18歳	不　要	不　要
1歳～15歳	必　要	必　要
0歳児：0歳	接種を受付けておりません	

・未成年者が一人で来院の際は、急変時の対応のため保護者の連絡先を確認します。（保護者は接種時に連絡が取れるようにしてください。）

3. 接種料金

年　齢	区　分	接種回数	1 回料金	合計料金
65歳以上①	南魚沼市内在住　葉書あり ※保険証か免許証を持参願います	1 回	1,560円	1,560円
65歳以上②	一般（南魚沼市外など）		3,500円	3,500円
65歳以上障がい者	障害要件該当者		1,560円	1,560円
13歳～64歳	一　般		3,500円	3,500円
3歳～12歳	小児　①	2 回	2,700円	5,400円
1歳、2歳	小児　②		2,000円	4,000円

・小児は**できるだけ早めに 1 回目の接種**を行ってください
・65 歳以上で**南魚沼市以外にお住まいの方**は受付にて予診票をお渡します、お声がけください。

4. お知らせ事項

・来院する時はマスクの着用をお願いいたします。
・“インフルエンザ予防接種専用予診票”を診療所に用意していますので、必ずお使いください。
・あらかじめ記載した“インフルエンザ予防接種専用予診票”を持参いただきますと比較的スムーズです。
・予防接種の効果があらわれるまで 2 週間ほどかかります
・新型コロナウイルス予防接種前後 14 日間は接種できません。
・浦佐診療所の夕方と土曜の診療はネットの事前予約者のみのため、
予約の無い方は平日（火～金）の午前（8：30 ～ 11：30）にお越しください。

萌気園　浦佐診療所　　電話 025-777-5222
萌気園　二日町診療所　電話 025-778-0088

編 集 後 記

萌気園通所リハビリセンター浦佐　今井　大志

厳しい夏の暑さが落ち着き、少しずつ秋を感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスは県内でも、行動制限のないお盆を過ぎた頃から第7波が拡大しつつあります。その他、手足口病や外国ではサル痘も流行しているとの報道もあります。マスク生活もまだまだ続きそうです。

さて、萌気園では30周年式典の準備が着々と進められています。この度、イベント係の諸橋さんと山田さんからプレイベントの紹介がありました。日々の業務の合間に時間を作り、撮影準備、動画編集などの作業を進めています。面白く仕上がってきているようなので楽しみですね。

先日の新聞委員会では、黒岩会長を交え、萌気新聞の見直しについて検討しました。皆様に読んでもらうにはどうしたら良いか！など話し合い、皆様に楽しみにしていただける新聞を目指しています。今後の動向に注目しましょう。

医療法人社団萌気会広報誌
令和４年９月号
9
Vol364
MOEGI
毎月1回15日発行
表紙題字　池田　キン様（萌気園大和通所介護　地蔵の湯）
ホームページアドレス：https://www.moegien.jp/